

福岡県議員国頭村訪問記録

福岡県議会議員の国頭村訪問は今回で2回目となる。第1回目はH26.2月、11名が訪問。今回は前回の参加者3名を含む14名での訪問となった。今回も前回と同様、国頭村教育施策の説明と辺土名小学校、国頭中学校の学校訪問である。学校訪問は授業視察である。



福岡県には福岡県の課題がある。福岡の地方の市町村の教育課題と真摯に向き合おうとする、未来に向かう議員さん達である。正直言って最初はびっくりでした。「えっ…県議員の皆さんですか?」、「国頭村にですか?」、電話やメールで本気であることを確信する。

ある議員さんの言葉である。「地域格差や経済格差を教育の現場から払拭し、福岡県のすべての子どもたちに平等に「生きる力」を育てていく学校教育を保障するのが我々県議員としての使命である。」…熱い!

国頭村も沖縄本島最北端の田舎であり、経済事情も厳しい、貧困家庭(生活保護世帯)も多くあり、さらに人口の流出により、地域は少子高齢化のモデル的地域としても過言ではない。

なぜ国頭村で「学びの共同体」か?どのように各学校に推進を図っているのか。どのような成果や効果が?リスクや壁は?議員の皆様の熱い思いがひしひしと伝わってくる。期待に応えられる説明や訪問になるだろうか? 私も不安であるが、わざわざ福岡から1泊2日の日程で訪れてくれた皆さんに失礼や失望にならないように頑張らせてもらいました。

[辺土名小学校]

【4年生 国語】

担任は、今年度赴任してきたばかりである。「学びの共同体って?」……

不安や疑念がないわけがない。「学び合い」の授業についても、まだ年度当初で校内研修で見聞きしてきた程度である。今日は担任にとっても初めて他者に見てもらう授業である。

まだ本校の子ども達との出会いから1ヵ月である。確かに不安はあるが表情に出すことなく、模倣で頑張ってくれた。敬意を表したい。

写真①②、周りの大人達も気にせずボソボソと「きき合い」「学び合う」子ども達である。

年度当初、前年度の研究が子ども達にどのように引き継がれていくか私にとって興味津々の時期でもある。教師は見せるための授業を準備できるが子どもはそうはいかない。

「日常をやる。日常でやる。」をモットーにしたい。教師から下ろされた課題に一生懸命向かい、投げ出さず、分からなければ訊きあい、困っている仲間がいたらみんなで支え合う。教師の頑張り子ども達に感謝である。



写真①



写真②



【6年 理科】こちらも新赴任の教師である。楽しい実験の時間を準備してくれた。小学校の理科の授業では、①実験の予想を立てる。②実験結果のまとめ等で、お互いの仮説の理由や根拠が学び合いのネタとなりやすい。「なぜそうなる」と予想したか。」仲間との対話的交流でさらに探究の方向を確かなものにする。

「まとめ」においては、一人で「まとめ」たことを発表させる前に、他者の見解や考えを聴き、仲間からの「学びの機会」を設定したい。「学び直し」が図られる。当然、ある規則や法則に基づく難題をジャンプ課題として設定するのも可である。



【3年 国語】

「消しゴムころりん」登場人物の感情曲線作成への挑戦である。(協同活動を設定)

いろんな事情を抱えた学級がある。さらに事情を抱えた家庭や個人がある。協同や対話が苦手な子がいても当然である。大人になっても他者とのコミュニケーションから自ら遠ざかる大人もいる。学校教育における対話や協同の体験は子どもたちの未来に不可欠になってくる。教室は子ども達にとって2番目の社会である。対話と協同は未来に向かうためである。



[国頭中学校]

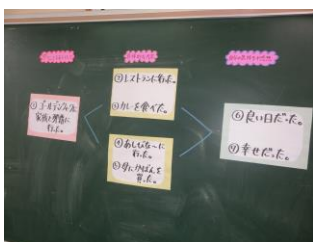
【2年 英語】GWの日記を書こう。



国頭中学校の4校時の授業参観である。2年生ではGWの日記を書こうがテーマであった。右の3枚の写真、どうですか？みんなが向き合い、それぞれのGWの出来事を聞き合っています。さらに英文にするために「訊き合っ」ています。素敵なテーマである、ほとんど全員が違うことをしてきたはず。テーマの設定時点で「同じ」がない。単語やスペルは分からない時には



訊けばいい、それだけである。一人も授業を投げ出さず課題に向かっている。「できる・できない」「できた・できなかった」この生徒たちの中で大切にされているのはなんだろう？生徒は明確に解決に向かう意思を示している。個人差への配慮とはよく聞かがいったいという目的で、どのように生徒に届けたときに生徒が心から受け入れてくれるのだろう。彼らは、困ったとき教師に依存しヒントをもらうことよりも、仲間に依存し分かり合うことを求めているのではないだろうか。彼らは最終の「できた・できなかった」にこだわっているのだろうか。それよりも教室の仲間と対話による学び合いに支えられ、支え合うことを楽しんでいるのではないだろうか。



左の写真、課題の視覚化（ビジュアル）である。最近UVデザインの授業の話をよく聞く。この板書は生徒たちにとって非常にわかりやすい課題提示と課題解決への過程を示しているのではないだろうか

UVデザインの3つの要件がある ①焦点化（シンプル）②視覚化（ビジュアル）③共有（シェア）である 授業者の生徒にささげる「簡単ではなく、分かりやすく。」の愛情ではないだろうか。

【2年 家庭科】 地震避難路について考えよう。



【共有課題】：校内で地震が起こった時の避難経路を考えよう。と言っても校内でもいろんな場所や時間の設定の中から、各グループで仲間の考え方を聞き合い、最終的に「僕は、私は」の言葉に置き換えて多様な考えを共有する。



実にしっとりきき合う教室である。ぼそぼそ、ぶつぶつ。教師の言葉が確実に生徒の心に届いている。なぜ…この教師の言葉をみんなが聴いてくれるのか？ ぜひ校内研修で取り上げて検討していただきたい。

【ジャンプ課題】：学校外の地域にいたとき

に地震がこつたらどうする？遊んでいるときに地震が来たら・・・？ いくつかの場所を教師が設定しグループで話し合う。分からないことを笑顔で語れるのはいい。生徒にとってこの課題は日常と直接つながっている。俺たちの遊び場から生き残ることを考えなくてはならない。皆、楽しく真剣である。



辺土名小学校、国頭中学校の皆さんありがとうございました。福岡の皆さんも大変満足されて帰路につくことができました。感謝いたします。福岡議員の皆様も地元で、淡々と「すべての子ども達のために…」頑張ってください。遠い田舎から応援します。ほんとにご苦労さんでした。

☆ 学校は内側からしか改革することができない、外からの支援がなければ継続できない【佐藤学】

[4月22日 NHK時論公論 西川龍一解説委員] 学力テスト結果公表の影響より

学力テストの目的：教育の成果を検証し指導改善に役立てる。…目的と手段が逆転しているとの指摘があった。

学テの公表によって30年前の学力テストと同じ結果を招きかねない懸念があるとも指摘した。…（30年前どういうことがあったのか教師達には知らされているのだろうか？）学校の序列化、学校間の競争が生じテスト前日に弱い子ども達に欠席するよう勧めたり、入学前に学校独自のテストが設けられたり、弱い子が入りづらい空気を学校側が作りだし、何の罪もない子ども達や親たちが学テで取れる点数で追いつめられて学校を選択していたという事実がある。… 私も初めて聞いた話であるが、何となく予想もできる。

子どもに全人的な「生きる力」を育むことは我々すべての大人の義務であり、学校の責務である。国や県が掲げる「学力向上対策」にはその意が反映されているはずである。しかし、現実には新年度早々からの全国学テに向けての傾向と対策である。・・・沖縄の事情はよくわかる。

本来の「学力向上対策」の指導改善の目的が、「学力テスト対策」に変えられていくことに不安が募る。